

# 期間後半の都市づくりのあり方、今後の検討ポイントについて

## 1. 期間後半の都市づくりのあり方

### ■これまでの都市づくりの検証

#### 人口動態等

- ❖本市の人口は直近10年(平成12年～22年)で約4,400人増加しており、世帯数も順調に増加
- ❖近隣自治体と比較して、人口や世帯数の増加率が高い
- ❖鉄道駅周辺やバス路線沿線等の交通利便性が高い地域で、住宅地の開発が進行

#### 将来人口推計

- ❖長期的な推計においては、人口減少局面への転換が予測
- ❖人口構成比が高い30～40歳代の高齢化により、今後、医療・介護サービスへの需要の高まりが予測

#### 産業動向、土地利用等

- ❖産業動向として、製造品出荷額等は微増傾向、市内従業者数は減少傾向
- ❖本市の介護需要量は愛知県全体よりも高い需要量となる見通しであり、また、介護施設数の不足が予測
- ❖土地利用について、市街化区域内の田・畑・低未利用地は減少傾向

#### 都市づくり施策の取組状況

- ❖現行の都市計画マスタープランに位置付けた各種施策(道路・交通、市街地整備等)を推進中
- ※施策実施後の効果等について市民の皆様から高評価を頂いている

### ■都市づくりに新たに捉えるべき要素

#### 法改正・社会情勢・地域計画に関する主な事項

(H25年以降)

- ❖あま市まち・ひと・しごと創生総合戦略(策定中)を踏まえ、人を呼び込む流れを生み出していく施策等を検討
- ❖リニア中央新幹線整備に合わせた、名古屋駅とのアクセス性の強化等を検討
- ❖愛知県地震被害予測結果の公表を踏まえ、大規模地震災害対策等を検討
- ❖本庁舎の整備効果等を市全体に波及させていく、まちづくりを検討

### ■期間前半の都市づくりの評価

- ❖現行の都市計画マスタープランに掲げた市の将来像の実現に向けて、順調に人口や世帯数が増加しています。
- ❖市民の皆様からも、マスタープランに基づき進めてきた施策実施効果に対して概ね高い評価を頂いています。
- ❖期間前半に進めてきたまちづくりを引き続き踏襲し、この良い流れを維持していくこと、また、さらなる質的充実を図ることで、平成33年の目標達成を着実なものにしていく必要があります。



### ■期間後半(H29～33)の都市づくりのあり方

- 本市が有する特性や強み(交通環境、人口や工業の集積、観光資源など)を活かしたまちづくりの推進、人の流れの誘導
- 本庁舎整備、リニア中央新幹線などの計画要素をしっかりとらえ、その整備効果や活力を市全体へ波及させていくための都市機能の強化
- 長期的な人口動態(少子高齢化)や人口減少をできるだけ緩やかに抑えていくための重点的な取組みの推進
- 法改正等の新たな計画要素に対応するための方針等をマスタープランに追加・拡充し、本市の都市計画行政の的確な執行の確保

## 2. 今後の検討ポイントについて

期間後半の都市づくりのあり方を踏まえ、下記の検討を進める。

### 『将来都市構造』『土地利用構想』に関する検討ポイント

- ❖今後の土地利用の見通しの検証
- ❖本庁舎の整備効果やそこから生じる活力等を市域全体に波及させていくための将来都市構造や拠点、土地利用についての検討
- ❖自然環境や農地の保全に十分に配慮しつつ、目標人口の達成や働く場の確保、雇用促進に向けた土地利用の方針の拡充検討
- ❖人口減少という中長期の潮流を踏まえ、市民生活や都市機能の維持のための人口密度、土地利用についてのあり方を検討

### 『道路・交通』に関する検討ポイント

- ❖本市の交通移動実態を整理するとともに、本庁舎整備やリニアインパクトの享受の観点から、将来交通ネットワークや施策のあり方を検討
- ❖人口や高齢者数の動向を見据えた公共交通体系のあり方を検討

### 『防災』に関する検討ポイント

- ❖愛知県の地震被害予測結果を踏まえ、大規模地震対策、防災拠点、広域防災のあり方を検証